

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600325		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム福寿園		
所在地	長崎県五島市吉久木町907-1		
自己評価作成日	平成29年5月30日	評価結果市町村受理日	平成29年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成29年6月27日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人内GHの理念は、「家庭的な雰囲気の中で、その人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します。」であり、この方針で取り組んでいる。このことは利用者本人・家族の希望を取り入れながら利用者のペースで支援していくことを基本にケアを行っている。利用者一人ひとりの時間を大切にすると共に、自然豊かな環境の中で、お互いが共助できるような支援を行っている。今年度も介護の知識や技術向上と併せて「人(職員)を育てる」ことにも取り組んでいる。介護の知識や技術だけでなく、人としての成長や発展が利用者へのケアそして質の向上と事業所の発展につながるものとして取り組んでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体法人系列の老人保健施設と隣接し、水田や山が望める緑に囲まれた自然豊かな環境にある。法人の共通理念を支援の柱と位置づけ、理念の具現化に取り組んでいる。職員は利用者の表情や仕草の変化を見逃さず、寂しさや不安を感じ取り、安心して生活ができるよう多く話し、ボディタッチなどで利用者の心に寄り添う「目配り・気配り・心配り」の支援に努めている。利用者が自身のリズムに合わせて自由に暮らしている様子が見学からも窺える。又、会話の中から知り得た趣味をケアプランに取り入れ支援に繋げるなどその人らしい生活の追求がある。事業所は看取りの研修を実施し、今年度1例の看取りに取り組んでいる。又、利用者の認知症進行に対する家族の不安軽減に努め、信頼関係を構築している。法人は積極的に様々な研修を実施し、職員の質の向上に取り組んでおり、更なる理念の具現化が期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム福寿園  
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	社会福祉法人 五島会 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活をめざし、目配り、気配り、心配りで心に寄り添うケアを提供します」を法人内のGHで統一し朝の申し送りで唱和し理念の実現に向けて日々努力している	法人の共通理念と事業所の介護目標を職員の目に入る箇所に掲示しており、毎朝申し送り時に唱和している。新人職員にはオリエンテーション時に説明している。利用者一人ひとりにとっての普通の生活を提供するため、職員は利用者の傍に寄り添い、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを持つために、地域の行事を見学したり、小学生や保育園児との交流に参加している	利用者・職員は、事業所前の田畑で農作業する人達と気軽に挨拶や会話を交わし、時には農作物の差入れもある。パラモンキングの応援見学やチャンココ踊りの来所、隣接施設で子ども達と交流している。職員は毎年地域清掃に参加し、道路脇の草刈りを行い、地域住民に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について内部、外部による研修等を通じ知識を深め、理解しようと日々努めながら実際のケアの中で職員間でも更に意見を交わしている。又家族や地域の人々の話にも耳を傾けるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では先月の事業実績及び次月の事業計画を議題とし、ケアサービスの内容や評価について説明している。その中で家族や委員から頂いた意見をサービス向上に活かしている	年6回、規程メンバーで会議を実施している。今年度から会議の運営方法を見直し、参加メンバーが発言しやすいよう質問の投げ掛け方を工夫したことで、有意義な意見交換となったことが議事録からも確認できる。ドライブ先や行事の情報等、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に2ヶ月に1回必ず参加いただき、介護保険制度や状況についても情報や意見をいただいている	書類手続きの際、担当課に出向いており、事業所の状況報告や運営上不明な点を尋ねている。年に1、2回市担当課職員が利用者の面談に訪れている。施設長が講師依頼を受けた際、法人本部を通じ、職員が会場設営等に協力している。職員は保健所等から案内のある研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会で禁止の対象となっている具体的な行為を学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は夜間から早朝まで施錠し日中は解放している	事業所では、身体拘束委員会を設置しており、年2回の法人内研修の他、事業所独自で年4回内部研修を行っている。管理者は「ちょっと待って」などの言葉や利用者が座りっぱなしの状態も拘束にあたることを日々話しており、職員同士も注意し合い、拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会で学ぶ機会を定期的に持ち、虐待行為を見過ごすことがないように注意を払いその防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修会で学び、内容について意見を交換しながら、それらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約と法改正の際には、分かりやすく説明を行い、理解と納得をしていただけるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に家族の意見、相談を聞き、運営に反映させるよう努めている	家族の意見や要望は面会時や電話で聞き取ることが多い。毎月、園便りを郵送し、年1回の家族会を開催している。遠方の家族には利用者の状況を手紙で知らせている。又、利用者には日常的に意見や要望がないか声掛けをし聞き取るなど意見要望の抽出に努めている。家族が介護の相談に来るなど信頼関係が深まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は主任者会議、スタッフ会議に参加し、現場の職員の声を代表者に伝えている。報告・連絡・相談をできる体制がとられている	職員は、月1回のスタッフ会議や朝礼時や業務の中で提案や要望を出す機会がある。積極的な提案や意見交換の様子が会議記録から窺える。又、年1回の法人施設長による個人面談時にも伝える機会がある。勤務体制の提案や業務改善など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、有給休暇など労働条件も厚遇されており、体調不良時や忌引き等の対応も考慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修やGHでの勉強会で研修を受ける機会の確保に努め、組織全体で「人を育てる」「人が育つ事業所」を目指して取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連した研修会に参加することで、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大切にして本人の理解を深めて、職員や施設を知ってもらうことで穏やかで安心した生活が送れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の様子、状況を細かく報告し 家族からも意見・要望等を聞いている。家族が話しやすい雰囲気作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する際は聞きとりを行い、実際に本人の状況を見極め必要な支援を提供する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「できること」に目を向けての生活支援をしている。利用者に意欲や生き甲斐を持てるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と協力し、共に本人を支えていけるよう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも自由に面会していただいております。親戚等が訪れている。家族の協力もあり墓参りに行ったり友人に会う機会を作ってもらったりしている	職員は利用開始時のアセスメントや日々の会話等から生活歴を把握し、新たな情報は申し送りノートに記載し共有している。家族や親戚、知人や自宅近所の住民などの訪問がある。行きつけの美容院や墓参り、法事の出席など家族の協力を得ている。又、事業所内で園芸や野菜作りなど趣味を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い入居者同士がお世話をしてもらったりと支え合いながら生活している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても家族との関係を継続し、入院等の際は、お見舞いをしている。退院後のフォローにも努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望については入居時に本人・家族から想いや意向として把握するよう努めている。またコミュニケーションを多く持ち表情や動作等を観察するよう努めている	職員は日々、利用者と1対1の場面を多く持ち、会話や表情、仕草などから思いや意向の把握に努めている。難聴や発語困難な利用者には職員がジェスチャーを用いたり、口元が見える位置でゆっくりと話したり、筆談等で聞き取っている。把握した思いや意向は記録し職員で共有し、ケアプラン作成へ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活、環境、これまでのサービス利用の経過等についても本人や家族から希望や意思を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や就寝時間、日中の過ごし方等、本人のペースに合わせて快適な生活ができるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンス、モニタリングを全職員で話し合い介護計画を作成している。面会時や電話等で家族の意向を聞いている	ケアマネージャーは、日頃から本人・家族の意向を聞き、職員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。月1回のカンファレンスやモニタリングを職員全員で実施し、その人らしく生活できるよう現状に即した介護計画となっている。計画開始前に家族に説明し、署名を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録として健康チェック表を作成し、バイタル、排泄、食事、入浴等を日々記録している。介護記録には病院受診の詳細や身体状況の変化を記録に残している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの日々の状況を把握し適切なサービスが受けられるよう柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握するために広報等を利用して地域行事やイベントに参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の意見を優先して、かかりつけ医を決定している。病状に応じて適切な医療が受けられるよう病院との連携を図っている	かかりつけ医は本人・家族に意向を聞き、継続している。基本的には職員が受診支援を行っているが、家族が受診同行するケースもある。受診結果や薬の変更は家族に電話で報告し、介護日誌に記録して職員間で情報共有している。夜間帯や緊急時の連絡手順を職員は把握しており、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する老健の看護師の協力を得つつ、常時看護が必要となった時には訪問看護を利用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを提出して本人の状況を詳しく伝えるようにしている。また早期退院できるように病院関係者との信頼関係を築き情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望と訪問看護師の協力を得て看取りを行い、病院や母体の老健施設と連携を重ね、家族の負担軽減にも努めている	職員が看取りに不安なく取り組めるよう、年1回研修を実施している。昨年、家族から希望があり、訪問医、訪問看護師と連携し、看取った事例が1例ある。事業所では重度化した場合における看取り指針を作成しており、利用者の状況の変化に応じて、家族、医師等と話し合い、家族の意向に沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	緊急時の対応マニュアルを作成している。定期的に勉強会を行い、緊急時に対応できるよう実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に火災や地震、水害等避難訓練を行っている。隣接する老健施設にも参加していただいている	年2回消防署立合いの下、夜間想定で通報・避難・消火の訓練を行っている他、土砂災害を想定した避難訓練も実施している。また、防災業者と共に自主訓練を年2回行っている。近隣には民家が少ないが、隣接する系列施設との協力体制が整っており、訓練にも参加している。非常持ち出し品の整備や備蓄も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに注意を払うことを全職員が心掛ける対応をしている	個人情報の利用目的は明文化し、家族の同意を得ている。呼称は苗字に「さん」づけで呼び、排泄誘導時や失敗の時は羞恥心に配慮した支援を心掛けている。事業所はプライバシー保護や接遇の職員研修を実施し、利用者の人格の尊重やプライバシーに注意した支援の周知に努めている。しかし、言葉遣いにばらつきがある。	利用者の尊厳を保ち、人格を貶めない言葉掛けや認知症の対応など、更なる周知と職員の理解が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望は日常の会話の中で聞き、欲しい物や行きたい場所、食べたいものなど自己決定できる機会を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースがあり、起床時間や日中の過ごし方等は本人の希望に添って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれ等 衣服選びは、できるだけ本人の好みを大事にしている。化粧品やアクセサリ等は愛用の品を使ってもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等の下ごしらえを一緒に行ったり、下膳や台拭きを手伝ってもらっている	献立は、職員がその日の食材で考え調理し、利用者の嚥下状況に合わせ、食べやすいようきざみ食などの工夫がある。利用者は下拵えや下膳など手伝っている。菜園の野菜や旬の食材を使った料理を提供したり、ベランダでのバーベキューや外食、出前を取る他、誕生日には利用者の希望の献立で祝うなど食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェックしており、嚥下状態の悪い入居者には刻み食やトロミ補助材等も使用し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い清潔保持と誤嚥の予防につなげている。口腔ケアを行なえない利用者は口腔ウエットシートや口腔ケアスポンジを使用して清潔を保持している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を行っており、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声かけや誘導を行っている	職員は、利用者の排泄を記録し排泄リズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。又、排泄の自立支援を理解し利用者の排泄状況や変化を職員間で共有し、適切な支援方法の意見交換を行っている。利用者に合ったパッドの種類の変更やリハビリパンツから布パンツへの移行、パッド使用の減少など改善がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会を通して食物繊維の多い食品を使った料理や腹部マッサージ、運動により便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人の体調を考慮しながら本人の意思によってできるかぎり入浴できるよう支援している	入浴は週6日準備し、週3回の入浴を基本として本人の体調や気分に合わせて対応している。好みのシャンプーや石鹸の利用も可能である。職員は女性のみであり、男性希望の同性介助は対応できない状況である。また、浴室に手すりが無いため、利用者の多くはシャワー浴となっており、湯船に浸る利用者は限られているのが現状である。	利用者が不安なく湯船へ浸れ、入浴を楽しめるよう検討・工夫することを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の基本的な生活リズムを保ち適度な休息や睡眠が出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用、用法、用量についてスタッフ会議で確認し病状や変化についても話し合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握して個々に応じた役割、嗜好品、楽しみごとを気分転換につなげるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外庭での昼食会、外食等 利用者の気分転換を図り、外出の機会を作るよう支援している	毎月、花見見物やドライブなど計画に沿った外出がある。事業所の便りからも、天気の良い日は散歩やドライブや外食などへ出掛けている様子が窺える。外出は希望を取り、車椅子の利用者も一緒に楽しんでいる。利用者の外出や買い物などは可能な限りその日の希望に沿っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く機会を作り、自分で選んだ品物を買えるように支援している。職員に買い物をお願いしたりもしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が好きなときに好きな時間にいつでも電話を利用できる体勢をとっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間であるリビング室では、テレビを見たり音楽を聴いたり、一人ひとりの好みで楽しめる空間を提供している。リビング室の外の畑では季節ごとの野菜や花を作っており、収穫を共に行う喜びと成長の糧を楽しんでいる	中庭を囲んだ回廊型であり、明るく、開放感がある。リビングの窓から見える水田や菜園、中庭や玄関の花木から自然や季節を感じることができ、稲や野菜の成長は利用者の楽しみとなっている。また、利用者が寛げるよう各所に椅子やベンチ等を配し、職員は毎日、空調管理、清掃、整理整頓して居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員がくつろげるソファや一人掛けのソファがあり、利用者同士の会話を楽しんだりテレビを見て楽しめるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の愛用品を置いたり、使い慣れた物を使用していただいている。また愛用品は自分でお世話してもらい、これまでの生活感を感じつつ生活できるよう支援している	持ち込みの制限はなく、テレビやラジオ、仏壇、家族の写真や趣味の作品など利用者は使い慣れた物、馴染みの物を持ち込んでいる。花を飾る利用者もいる。転倒リスク軽減のためマットを敷いた居室もある。日中、使用しないポータブルトイレは職員手製のカバーをかけ、毎朝掃除や換気を行い、気持ちよく過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を全職員が把握して安全で、できるかぎり自立した生活が送れるよう工夫している。場所(トイレ・風呂・居室)には、それぞれ分かりやすい名称、名前を記入している		